

ふじさわ・九条の会 20 周年宣言

○今から 10 年前、特定秘密保護法が成立し、集団的自衛権行使容認の閣議決定が為されて、日本が海外で戦争に加担する危険性が現実味を帯びてきたという危機感が私たちにありました。

○いま自衛隊と米軍の統合司令部が作られ米軍との一体化、従属化が一層深まっています。絶対に完成しない辺野古基地に、莫大な税金を投入し続けています。そして沖縄、先島諸島への自衛隊ミサイル部隊の配備が進行しており、米中対立の結果によっては沖縄、先島諸島が戦闘の最前線になろうとしています。海外での戦争に加担するのではなく、日本を戦場にするという恐怖です。横浜ノースドックには米軍の揚陸艇部隊が常駐しています。

○10 年前に私たちが予感していた新たな戦前が、将しく開戦前夜の様相を帯びてきています。全国空襲被害者連絡協議会（空襲連）への謝罪、賠償の拒否を見れば、市民の戦争被害への補償、賠償はしないという、自民党政権と官僚のこれは態度表明に他なりません。

○岸田文雄は首相在任時、原発の最大限の活用に舵を切りました。実現不可能な核燃サイクルへの固執と、溜まり続ける核燃料の問題を先送りしたままに。

○この間の底知れぬ食品の高騰と、米不足に政府は無力であることをさらけ出しています。原発を海岸線に配置したまま再稼働を進め、食料も輸入に依存しながら戦争準備をしている異常さを政権、官僚、議員たちは分からないのでしょうか。

○世界に目を転じればウクライナの戦争は終わらず、ネタニヤフ、トランプによるパレスチナのジェノサイドが、世界が見つめる中で誰も止められず止めようとせず、私たちの目の前で惨劇が進行しています。

○能登地震、山火事の頻発による被災者の救援を放置して、大阪万博の開催とカジノ建設、米軍ポンコツ兵器爆買いの支払いが日常的に進行しています。

そしてヘイトの横行蔓延と入管での人権蹂躪の日常化は、人間を大切にしない日本という国家が、その正体を現しているのです。国会の憲法審査会是一部野党も加担して、憲法を無きものにしようとしています。

○世界は惨憺たる有様です。このイカレタ世界を真つ当な世界にしていかなければなりません。それには私たち市民が抗いの声を上げ続けるしかないのだと思います。「一人でも止めない一戦争への反対。一人でも止める一戦争への参加」（鶴見俊輔）というように。そして「私たちが戦争を終わらせないとき、戦争が私たちを終わらせる」（HG ウェルズ）ことを防ぐために。

2025 年 5 月 10 日 ふじさわ・九条の会 20 周年イベント参加者一同